

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3554742号
(P3554742)

(45) 発行日 平成16年8月18日(2004.8.18)

(24) 登録日 平成16年5月21日(2004.5.21)

(51) Int.Cl.⁷

F I

G09B 7/02

G09B 7/02

G06F 17/21

G06F 17/21

G09B 5/02

G06F 17/21 590A

G09B 5/02

請求項の数 2 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-170857
(22) 出願日 平成9年5月26日(1997.5.26)
(65) 公開番号 特開平10-333540
(43) 公開日 平成10年12月18日(1998.12.18)
審査請求日 平成9年8月18日(1997.8.18)
審査番号 不服2003-3485(P2003-3485/J1)
審査請求日 平成15年1月29日(2003.1.29)

特許権者において、実施許諾の用意がある

早期審理対象出願

(73) 特許権者 597062683
炭本 治之
埼玉県さいたま市南区辻5丁目6番2号メ
ゾンシャトレー202
(72) 発明者 炭本 治之
埼玉県浦和市神明2-1-22南浦和ビュ
ーハイツ105

合議体

審判長 番場 得造

審判官 中村 圭伸

審判官 清水 康司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 テキストファイル内指定文字列空欄表示及びイメージ表示方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

空欄とする文字列は特定の記号で囲まれることで指定され、テキストファイル内でイメージ表示する長方形の領域はその領域の左上と右下の位置に特定の記号が記述されることで指定され、

そのイメージ表示領域内に表示するイメージのファイル名が記述されていることを特徴とするテキストファイルを、プログラムによって画面に表示する方法であって、

(1) 前記空欄指定された文字列は空欄を表示し、

前記イメージ表示領域には前記指定されたイメージファイルを表示し、

(2) ユーザーが空欄をマウスでクリックすると空欄に空欄部分の文字列を表示すること 10
を特徴とするテキストファイル内指定文字列空欄表示及びイメージ表示方法。

【請求項2】

空欄とする文字列は特定の記号で囲まれることで指定され、テキストファイル内でイメージ表示する長方形の領域はその領域の左上と右下の位置に特定の記号が記述されることで指定され、

そのイメージ表示領域内に表示するイメージのファイル名が記述されていることを特徴とするテキストファイルを、プログラムによって画面に表示する方法であって、

(1) 前記空欄指定された文字列は空欄を表示し、

前記イメージ表示領域には前記指定されたイメージファイルを表示し、

(2) ユーザーがキーボードの特定のキーを押すと空欄に空欄部分の文字列を表示するこ 20

とを特徴とするテキストファイル内指定文字列空欄表示及びイメージ表示方法。

【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】

この発明は、テキストファイルを表示するプログラムに関するものである。

【従来の技術】

従来のエディタやワードプロセッサは、特定の文字列を太字にしたり、下線を付けて表示するものであった。長方形の空欄にして表示する機能はなかった。また、従来のハイパーテキストでは、表示されたテキストファイルの中の特定の文字列をマウスでクリックすると、新しいウィンドウの中に別の文章を表示するものであった。ハイパーテキストでも長方形の空欄は表示しない。またテキストファイルにはさまざまな制御文字が組み込まれるため、テキストファイルを直接見ただけではどのような表示内容になるかがわかりにくい。

10

【発明が解決しようとする課題】

- (1) 長方形の空欄を表示する機能がない。
- (2) テキストファイルの中にさまざまな制御文字を組み込むか、テキストファイルとは別の制御ファイルを必要としたので、専用のエディタが必要である。また、データのテキストファイルを直接見ただけでは機能が分かりにくい。
- (3) イメージデータを取り込んでテキストといっしょに表示する機能はない。

【課題を解決する手段】

本発明では、以下の方法により前記の課題を解決する。

20

- (1) テキストファイルの中の [] で囲むなどで指定された文字列を長方形の空欄として表示する。
- (2) ユーザーが空欄をマウスでクリックまたはポイントするか、キーボードの特定のキーを押すことによって、空欄部分の文字列を表示する。
- (3) テキストファイルの中に特定の記号が指定する長方形の領域を取り、そこにイメージデータのファイル名を記述しておく。テキストファイルを表示する時には、その長方形の領域に指定されたイメージが表示される。
- (4) テキストファイルの中に縦書き表示指定があれば縦書き表示をする。

【発明の効果】

30

- (1) 画面に表示された内容は、印刷物の空欄問題集とほとんど同じイメージである。
- (2) 印刷物の空欄問題集を使って学習する時には、解答を隠す、見る、ページをめくることに神経を使う。しかし、このプログラムを使うと、上記の作業はプログラムが行うので学習に専念できる。知識の有無を確認するのに、大量の空欄問題を、短時間で、楽に、ゲーム感覚で行える。
- (3) 扱うデータは、単純なテキストファイルであるから、ユーザーは特別な専用エディタを必要としない。

市販のOSに付属するエディタを使って、容易に問題文や解説の追加、削除、変更できる。イメージもユーザーが自由に編集できる。

40

編集したテキストファイルから、プログラムで表示される画面が容易に想像できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 サンプルのテキストファイルである。

【図2】 サンプルテキストファイルを本発明のプログラムで表示した画面である。

【図3】 改行キーを押すことで空欄内の文字列を表示している途中の画面である。

【図 1】

タイトル	化学-気体
著作権者	炭本治之
制作年月日	1996/10/08
禁止事項	バックアップ用以外の複製、再配布、先頭6行の書き換え
許可事項	本文内容を変更しての使用、バックアップ用の複製

<気体の発生>

H₂ [Zn]に[希HCl]または[希H₂SO₄]濃HClだと気体のHClが混ざってしまう。

O₂ [H₂O₂]に触媒として[MnO₂]を加える。
[KClO₃]に触媒として[MnO₂]を加えて加熱。

Cl₂ [濃HCl]に酸化剤として[MnO₂]を加えて加熱。
さらし粉[CaCl(CIO)]に[HCl]を加える。

HCl [NaCl]に[濃H₂SO₄]を加えて加熱する。
副成生物は、NaHSO₄
揮発性の酸の塩に不揮発性の酸を加えて加熱すると揮発性の酸が出る。
[下方]置換

SO₂ [Cu]に[濃H₂SO₄]を加えて加熱。酸化する。
[下方]置換

NO [Cu]に[希HNO₃]。

【図 3】

タイトル	化学-気体
著作権者	炭本治之
制作年月日	1996/10/08
禁止事項	バックアップ用以外の複製、再配布、先頭6行の書き換え
許可事項	本文内容を変更しての使用、バックアップ用の複製

<気体の発生>

H₂ [Zn]に[希HCl]または[希H₂SO₄]濃HClだと気体のHClが混ざってしまう。

O₂ [H₂O₂]に触媒として[MnO₂]を加える。
[KClO₃]に触媒として[MnO₂]を加えて加熱。

Cl₂ [濃HCl]に酸化剤として[MnO₂]を加えて加熱。
さらし粉[CaCl(CIO)]に[HCl]を加える。

HCl [NaCl]に[濃H₂SO₄]を加えて加熱する。
副成生物は、NaHSO₄
揮発性の酸の塩に不揮発性の酸を加えて加熱すると揮発性の酸が出る。
[下方]置換

SO₂ [Cu]に[濃H₂SO₄]を加えて加熱。酸化する。
[下方]置換

NO [Cu]に[希HNO₃]。

【図 2】

タイトル	化学-気体
著作権者	炭本治之
制作年月日	1996/10/08
禁止事項	バックアップ用以外の複製、再配布、先頭6行の書き換え
許可事項	本文内容を変更しての使用、バックアップ用の複製

<気体の発生>

H₂ [Zn]に[希HCl]または[希H₂SO₄]濃HClだと気体のHClが混ざってしまう。

O₂ [H₂O₂]に触媒として[MnO₂]を加える。
[KClO₃]に触媒として[MnO₂]を加えて加熱。

Cl₂ [濃HCl]に酸化剤として[MnO₂]を加えて加熱。
さらし粉[CaCl(CIO)]に[HCl]を加える。

HCl [NaCl]に[濃H₂SO₄]を加えて加熱する。
副成生物は、NaHSO₄
揮発性の酸の塩に不揮発性の酸を加えて加熱すると揮発性の酸が出る。
[下方]置換

SO₂ [Cu]に[濃H₂SO₄]を加えて加熱。酸化する。
[下方]置換

NO [Cu]に[希HNO₃]。

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平5 - 2 1 6 3 8 8 (J P , A)
特開平6 - 1 0 2 8 1 7 (J P , A)
特許第2 7 8 0 9 2 4 (J P , B 2)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B名)

G09B 7/02,5/02

G06F 17/21